【高等学校用】

令和2年度学校評価 結果

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	佐賀県立有田工業高等学校
1　前年度 評価結果の概要	どの評価項目も概ね達成できたと考えるが、なかでも心の教育、進路保障、キャリア教育、高校魅力づくりの推進については、成果がよく現れた。今年度、新設された「高校魅力づくりの推進」では、積極的に地元有田町と連携・協力し、様々な活動を行うことができたが、このことは重点目標の１つである地域連携と特色ある教育の推進にも繋がった。来年度以降も本校の魅力を高めるよう努めたい。一方、学力向上、開かれた学校づくりについては、満足いくものとならなかった。指導体制、方法がマンネリ化しているきらいがあり、教員の考え方や指導と生徒、保護者の意識や行動にも一部ずれが見られた。反省と工夫を怠らず、継続的・計画的指導が必要であると考えるが、そのためにも学校評価をＰＤＣＡサイクルに活用し、常に業務改善を行っていきたい。次年度は、創立１２０周年の節目を迎えるにあたり、今年度の成果を踏まえて、あらゆることが共通理解のもと全校的な取り組みとなるよう意識したい。
2　学校教育目標	平和で民主的な社会の形成者として、個性豊かで人間愛に満ち、国際的視野に立って社会に貢献できる、心身ともに健全な人間を育成する。
3　本年度の重点目標	①あいさつ、服装、マナー指導の徹底と思いやりの心の醸成 ②進路保障に繋ぐ学力向上、資格取得、部活動 ③生徒、職員の心身の健康増進

4　重点取組内容・成果指標　　中間評価　　5　最終評価

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○（学校独自重点取組） ・基礎学力の定着（基礎力テストへの取り組み強化）	○（学校独自成果指標） ・全校生徒の年間平均得点を7点以上。 ・事後指導対象者0を目指す。	・作問担当者や各担任と協力し、準備、作問、分析を依頼する。 ・学習用プリントの配布と事前準備。	B	・学習用ノート・プリントの活用により、生徒の全平均が10月末時点で7.25である。教科により差がみられるので、指導に工夫が必要である。一方で、事後指導者数が一定数あり、改善が望まれる。 ・9月実施のアンケートで基礎力テストにまじめに取り組んでいると答えた生徒の平均値が4点満点中3.2点であった。	A	・基礎力テストの全平均は1月末現在で7.2であり、目標の数値を達成できている。また、出題担当者やクラス担任の取り組み姿勢も学習用プリントを利用するなど改善され、このテストへの意識は向上したと言える。	A	・成果指標の事後指導対象について最終評価で触れられていない。前年度と比較し向上しているので良好。 ・生徒本人たちはB判定にしているが保護者や教員はAで達成しているということなので本人たちはもっと頑張れるということではないでしょうか。もう少し頑張りましょう。	教務部、各学年
	◎（学校独自重点取組・任意） ・資格検定取得の奨励と進路保障 ・考査前学習会の実施、欠点の解消。	◎（学校独自成果指標・任意） ・ジュニアマイスター認定50名、校内表彰20名以上を目指す。 ・生徒・保護者が望む就職・進学先への合格率100%を達成する ・欠点科目１科目以内となる指導の実施。	・資格取得、ｺﾝｸｰﾙ参加を奨励、補習体制の充実 ・進路対策補習、模擬面接を実施し、学力の向上、コミュニケーション能力の強化を図る ・担任団、他の分掌と協力して、基礎力の向上に努める。 ・考査前欠点科目の計画的な学習推進。 ・朝読書の実施、図書館便りの発行、図書室のレイアウト変更、生徒の希望に沿った選書により、図書館利用を促し、資格取得、進路保障につなげる。	B	・新型コロナウイルスの影響により、資格試験が延期または中止になり、生徒達もなかなか意欲が高まらない状況ではあるが、後期の日程に移行して指導するなどの対策をとったり、今後の資格試験状況等の情報をまとめ伝えたことで、料を超えて資格取得を受験する生徒が増えてきた。また、資格取得の補習は前年の反省点をもとに工夫・改善がなされており生徒の補習への参加は良好である。	A	・ジュニアマイスター認定者は約40名とコロナ禍で様々な資格が中止・延期される中、思った以上に取得者が多かった。 ・補習、模擬面接は計画通り実施した。進学、就職とも十分な成果を出した。佐賀大学4名合格は、過去20年間を調べる限り初めてである。 ・年間を通して成績不振の生徒に対し、考査前学習会を行い、成果がみられた。（2年生） ・日頃の学習や資格取得などに真摯に取り組み、進路決定に良い結果をもたらした。（3年生） ・図書室は昨年度と比べて約2倍の貸し出し冊数を記録し、多くの生徒が利用した。	A	・コロナ禍においても、資格取得や目指す進路に向けて努力されたと思う。 ・コロナ禍での検定受験は健康面も精神面も大変であったろうと推測されますが、その中で結果を出されて素晴らしい。 ・ジュニアマイスター取得は就職の際に影響すると思う。あと一息子供たちに頑張ってもらいたいと思う。	進路指導部 工務・情報部 各学年 図書・視聴覚部
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○（学校独自成果指標） ・「生命を尊重する心や献血への協力の大切さがわかった」と回答した生徒90%以上 ・5S運動を推進し、安全教育の充実と環境意識を高める。	・外部講師による性に関する講話及び献血セミナーを実施する。 ・企業等の5Sに対する取り組みを調査し、その内容を保健便り等に掲載するなどして、ものづくりに責任をもって取り組もうとする意識の向上を図る。	B	・新型コロナウイルス感染症予防のため日程変更を余儀なくされたが、性に関する講話と献血セミナーを12月中に実施するよう計画している。 ・5S運動は学校生活のみに必要なことではなく、社会に出ても必要なスキルであることを伝え、教室掲示をするなどして意識を高めている。また、自分の使用した道具の整理整頓や掃除の反省を毎時間記入させるなどを徹底した結果、徐々に身に付いてきている。	A	・新型コロナウイルス感染症予防のため性に関する講話及び献血セミナーの日程変更を余儀なくされたが、12月にリモート形式で実施し、「生命を尊重する心や献血への協力の大切さがわかった」と回答した生徒が91%であった。	A	・リモートなど状況に合わせた形で教育されていて良。生きていくうえで必要な内容なのでこれからも続けてほしい。 ・今年度のコロナ禍での生活は予防に関しても意義のある事だと思う。	保健指導部 生徒会 工務・情報
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等について、共通理解、組織的対応ができていると回答した教員90%以上	・いじめの対応についての研修・会議を年間に3回以上行う。 ・いじめに関する生徒へのアンケートを定期的に実施する。	B	・いじめの対応についての研修・会議を2回、いじめに関する生徒へのアンケートを4回実施。今後も年間計画に従り実施予定。 ・教員の共通理解、組織的対応については、概ね達成できている旨の回答が多かったが、数値化（%）して把握する準備ができていなかった。	B	・いじめ防止等について、共通理解、組織的対応ができていると回答した教員90%であった。 ・いじめの対応等についての職員研修を3回実施（4・8・1月）した。 ・いじめに関するアンケートを6回実施し、学期初めの三者面談等とあわせていじめの把握に努めた。 ・	B	・アンケート等、いじめの実態を知らせるタイミングは、いじめられている生徒にとっては救いだと思うのでしっかりキャッチしてほしい。 ・早めの対応が良かったと思う。	生徒指導部 各学年 工業科
●健康・体つくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える生徒90%以上	・生活状況調査の実施 ・心身の健康の保持増進に必要な情報を保健だより、食育だよりで発信する。	B	・HR、各教科、部活動等での指導により、「健康に食事は大切である」と答えた生徒は99%であり、食事の大切さを認識できている。 ・保健だより、食育だより、健康調査などが、健康の保持増進への生徒の意識向上に役立っている。	A	・HR、各教科、部活動等での指導により、「健康に食事は大切である」と答えた生徒は99%であり、食事の大切さを認識できている。 ・保健だより、食育だより、健康調査などが、健康の保持増進への生徒の意識向上に役立っている。	A	・認識はできているので、実行も「A」となると良い。特に一人暮らしの社会人・大学生となったら今以上に気を付けてほしい。 ・家庭での食生活が充分できている結果だと思う。 ・食事の大事さを考えている人が90%以上とは素晴らしい。	保健指導部
	○（学校独自重点取組・任意） ・体力の向上 ・運動部活動の活性化	○（学校独自成果指標・任意） ・新体力テストデータを活用した体育の授業改善 ・運動部加入率を高める	・体育の授業で体力を高める運動を取り入れる。 ・部活動紹介、HP部活動ニュースの充実	B	・今年度は、コロナの影響で新体力テストが全て実施できていないが、体育の授業では、生徒は積極的に動き、体力を高められている。 ・運動部の加入率は高くないため、面談時に担任より運動部の重要性を説明してもらった。HPをもっと充実させていく必要がある。	B	・新体力テストは可能な限り実施したが現時点ではまだ結果が出ていない。授業では常時、体力を高める運動を取り入れることができたし、マラソン大会への取り組みも良かった。 ・運動部加入者割合は昨年度に比べ0.3%増えた。例年運動部加入率の高い機械科が募集減になったことを考えれば、良い数字だと思う。	A	・コロナで授業数や内容の変更はあったのだろうか。以前に比べ女子生徒比率も上がったので部活の種類や選択肢も増えたのだろうか。全体の生徒数は減ったため、増やせないだろうか。 ・運動部の加入率が増えた事は素晴らしい。 ・部によっては素晴らしい成績を残してあり、ますます精進してほしい。	生徒会
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・会議の討議時間設定、事前配布など、会議時間の短縮を図る。 定時退勤日を職場全体として週1回、個人による1回を設定し時間外勤務の削減を図る。 ・部活動指導については部顧問間で指導時間を調整し負担が偏らないようにする。	B	・全体として、会議時間の短縮を図れている。職員会議においては現在まで9回中3回5～20分超過したことがあった。運営委員会で時間を要した際には、職員会議の時間設定を検討していきたい。 部活の指導については負担の差がみられる。完全に均等に調整するのは難しいが、可能な限り調整していただきたい。	B	・会議時間の短縮を意識した事前配布や討議時間の設定により会議時間の超過は少なかった。まだ、完全とはいえないため、今後も習慣づけていきたい。・月100時間超、2～6カ月80時間超は0になった。月45時間超が約15人程度。さらに、意識改革が必要である。部活動、校務分掌の業務の負担が偏らないよう職員相互の助け合いが必要である。	B	・先生方の心身の健康のためにも、時間外勤務の削減・業務効率化に努めてほしい。 ・部活動指導の調整が困難でしょうが一年を通して休める時期に取るようにした方が良い。 ・学校の授業以外の部活動等での引率など課外勤務が多いと思います。仕方ない事かもわかりませんが先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。	管理職

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○地域・保護者との連携	○（学校独自重点取組・任意） ・地域と連携して高校の魅力を高める取組を推進する。	○（学校独自重点取組・任意） ・生徒自身が地域貢献を通して、意識がどのように変化したかをルーブリック評価を行うことで分かる。平均3以上を目標とする。	・情報交換会やチーム会議の充実 ・うちやま百貨店にてワークショップや展示 ・各科課題研究を通じて地域貢献 ・有エふるさとオープン検定の実施 ・保護者の学校行事への参画により、本校の魅力を知ってもらう。	B	・本校は、昨年度より「地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト（アリタミライプロジェクト）」事業に取り組み、地域の課題解決や活性化のために有田町まちづくり課・有田町教育委員会生涯学習課とも連携を図り、地域の課題を知るために様々な意見交換を行っている。セラミック、デザイン、電気、機械の４科それぞれの専門性を活かし、ものづくりを通した貢献をしている。 11月には有田町の伝統的建造物群保存地区で「秋の陶磁器祭り」の週末に開催される街歩きイベント「うちやま百貨店」にも参加し、有エギャラリーとして生徒の作品展示などを行う予定である。	B	・うちやま百貨店では、生徒達も積極的に取り組み、地域貢献することができた。ルーブリック評価では目標の平均3には届かなかったが、2.7であった。 ・課題研究では全科で取り組み、幅広い活動をすることができた。 ・有エふるさとオープン検定は今年度新型コロナウイルス感染拡大予防のため、WEB上で実施する予定である。	B	・コロナで活動がしにくかったと思うが様々な活動をされていると思う。関係者・卒業生としてとても嬉しい。 ・卒展や体育祭・文化祭などポスターで宣伝をもっとした方が良い。	工務・情報部 総務部 工業科

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・今年度は、コロナ禍で様々な取り組みにおいて変更実施を余儀なくされた。そのような中ではあったが、実施できる方法を探り、積極的な取り組みが実り、本年度の重点目標である進路保障、学力向上について目標値を達成することができた。 ・学校独自の重点取組である地域との連携については、課題研究等を中心に、地元小中学校への陶芸交流、地域の農家の皆様との商品パッケージの開発、医師会への手作りフェイスシールドの寄贈など多くの取り組みを実現し、地域との関わり合いを深めることができた。 ・次年度は新たなプロジェクトとして、地域みらい留学プロジェクトを本格的にスタートしていく。次世代を担う人材を全国から募集し、地域の協力を得ながら、町と学校が共に活気づく基盤づくりを展開していきたい。